



「新しい扉」の先に…

教務主任 森内 優

夏休みが明け、1か月が経ちます。分散登校期間が続いていましたが、一斉ではなくとも子どもたちと直接顔を合わせられることへの安心感、そして何より有難さを感じる日々です。

さて、「コロナ禍」といわれる昨今、学校においても大きな変革の波が押し寄せています。その一つが『GIGA スクール構想』といわれるものです。この『GIGA』とは、

“Global and Innovation Gateway for All”

（すべての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）

を意味しています。今や、社会のあらゆる場所で ICT (Information and Communication Technology) の活用が日常となっており、仕事や家庭での利用にとどまらず、子どもたちが手にする玩具にもこうした技術が活用されています。

一人一台端末の配備が進んだことで、子どもたちは今まさに「世界につながる革新的な扉」の前に立ち、その扉を開こうとしています。この端末一台を手にひとたびネットの世界に入れば、24時間いつでもだれとでもつながることが可能です。また無限ともいえる情報に出会うことにもなります。

便利なことこの上ないツールですが、一方で扉を開いた先の進み方を誤ると、思わぬ落とし穴が待ち受けていることもあるでしょう。そうならないようにするため、学校では基本的なルールや使い方を指導しています。しかし、学校で行うだけでは限界があることも事実です。新しい扉のその先を、子どもたちにとって明るく実りの多いものにするために、今こそ「学校-家庭-地域」が一体として子どもたちを見守っていくときだと思うのです。

新しい生活様式の影響で、人と人との直接的なつながりが薄れてしまったと危惧されることがあります。でも、子どもたちとともに保護者、地域の皆様、そして私たち教職員も一緒に「新しい扉」を開き、ICTも活用した「新しいつながり」を構築していくことで、その先の明るい未来が見えてくると信じています。こんな時代だからこそ、「つながり」を希薄にしない工夫を、まさに「みんなで」考えていきたいと思っています。

「新しい扉」のその先に、あなたはどのような未来を描きますか…